

第65回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成28年8月3日 18:30～

場所 水島公民館

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。今日は夕方のそれぞれに大変お忙しい時間帯の中に、この市民ふれあいトークにお運びをいただきまして、誠にありがとうございます。半年ぶりぐらいに、この市民ふれあいトークの開催ということになりまして、そして私にとりまして、3期目の市長としてこの5月から仕事をさせていただくことができいております。皆様に心より感謝を申し上げますとともに今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

そして、3期目の最初の市民ふれあいトークをどこでしょうかという相談を広報課としております中で、その時まだ4月下旬から5月で、三菱さんの車の問題がまったただったという時期だったものですので、この時までに問題が一応収束していればいいなと思っておりましたけれど、まだどうかわからなかったんですけど、水島で開催をして、そして皆さんからいろんな意見をおうかがいして、また、まちづくりについても3期目の最初のふれあいトークということで皆さんとともにこれから頑張っていきたいなということで、水島の公民館で開催をさせていただいたものでありますので、今日は1時間半ぐらいお付き合いの方よろしく願いできればと思っております。

最初に私の方からこの水島地区、また倉敷市全体の状況など少しお話をさせていただきます。

今倉敷市から東日本の大震災の支援ということで、平成23年度からずっとしているんですけど、今岩手県の釜石市とそれから大槌町というところを支援しております。そこに今うちの職員が下水道とそれから道路の関係で行っておりますので、激励とそれから市長さんと町長さんとお話するというので一昨日の夕方出発いたしまして、それで昨日まで現地で活動いたしまして今日帰ってまいりました。

そして、震災といえば熊本の地震のことです。4月14日に発生いたしまして、この前の水島の港まつりでも地域の有志の皆さん達がくまモンを呼んでくださいまして、大変な人気だったとうかがっております。熊本の地震の方にも倉敷市から消防援助隊、水道の援助隊、建設部局、保健師さん、災害がれきの環境部と、今までのところで計画的にお手伝いをさせていただいております。現地の方からお話をうかがいますと、震災の復興のところに徐々になりつつあるということでございますけれど、まだまだ一番困っていらっしゃるの観光客の方とか産業のところ、お客さんが来てくれないというふうに皆さん言われていらっしゃる、倉敷市からも市民の皆様からお預かりした義援金をお送りいたしておりますし、そういうこと等ははじめとして、これからも一生懸命応援をしたいと思います。

さて、最近の倉敷市の大きな動きと申しますか、最初にも申し上げましたけれども、三菱さんのことが4月20日に問題がオープンになりまして、大変びっく

りいたしましたけれど、これだけの大きな影響がある事態になったということで、もちろん三菱さんには体制をちゃんとして、もうこういうことがないようにしていただかないといけません。東京の方で技術の方が、とうかがっておりますけど、この水島製作所、それから水島製作所と取引をされております何百社にのぼる市内の取引先企業の皆さんも何万人もいらっしゃいます。その皆さん達は発注を受けたものを一生懸命作られて技術を高めて頑張ってくださいっているので、なんとか早く解決をしていこうということを市としても一緒になって取り組んでまいりました。

発生直後、東京の方では水島、三菱が問題なことをしたんで、これはどうするべきか、というような感じが蔓延をしておりました。地元選出の国会議員の皆さん達もいろいろそういう声を聞かれまして、私としても地元の声を早く届けないといけない。もちろん問題はあるんですけど、これだけの影響があると、何百社にも及んで、経済の効果がこんなにもなるということを早く届けて、もちろん悪いんだったら何かしら例えば処分があるとかいうことであれば早く手続を進めて早く再開をしてもらえるようにしないといけない。もちろん処分がないのが一番いいんですけど、ある場合でも早くしてもらわないと。最初の頃、本当に半年とか止まるんじゃないかと言われておりましたので、そういうことを申し上げたり。それから各企業への融資の制度を適用してもらえるようにセーフティネット保証第2号という、こういう大きな事態の時に国が適用する制度なんですけれど、それを早く進めてもらえるようにということ等をお願いしてまいりまして、私が考えます中では一番早いスケジュールで再開をしていただけたんじゃないかと思っております。今三菱さん一生懸命頑張ってくださいしておりますし、市といたしましても水島製作所、また関連取引企業さんの応援ということもありまして、先日発表いたしました、車の方を思い切って更新をさせていただきました。三菱さんの支援だけでなく取引をされている企業の皆さん、それから、地域の地域経済のためということで、倉敷が発売いたしましたら総社さんもすぐ発表されまして、それから井原市役所さん、笠岡市役所さんと多分浅口さんとかも考えてくださっているみたいで、地元で大きな産業でありますので、応援をしていきたいと思っております。

それからもう一つ、最近倉敷市の中で世界に発信をいたしました大きなことが5月のG7の倉敷教育大臣会合の開催でございました。今回5月の13・14・15日ということで、伊勢志摩サミットが三重県で行われまして、それに関連して10の大臣会合が日本全国で開催されたんですけど、その中でほとんどが仙台さんとか北九州とか広島とか、県庁所在地とか政令指定都市のところほとんどだったんですけど、ほぼ倉敷市だけが政令指定都市でもない、それから県庁所在地でもないところで、またこれまでにそういう大規模な国際会議の経験がなかった市として、でも選ばれまして、昨年からは準備を続けてきまして、なんとか皆様からご評価をいただくことができました。アメリカのキャロライン・ケネディ大使をはじめ、各国の大臣が来られまして、ほとんどが東京と京都には来たことありましたが、倉敷市っていうのは知りませんでしたし、来たことありませんでした。でも来てみたら本当に素晴らしいところですね、ということをお言

れまして、大変心強く、また元気づけられた思いがいたしました。

会場が倉敷アイビースクエアと国際ホテルだったものですので、一番近いところで老松小学校と倉敷の西中学校で視察をしていただくということで、ケネディ大使と一緒に老松小学校で給食を食べていただきまして、非常に日本の給食に感心されておりました。栄養バランスが整っていると。ごはんも普通の白いごはんだけでなく玄米が入ってるごはん、ビタミンでもバランスが取れてるとかです、桃のゼリーとか地元の産品を使ってるとか、お豆さんとか牛乳とかバランスが取れているということで、栄養改善協議会の皆さんに聞いていただきたいような内容でしたけれど、そういうことで非常に褒められまして。

その後も一つ褒められたのは、掃除を子ども達がしているということに大変皆さん感銘を受けられておりました。給食の配膳とそれから食べてそれを自分たちで片付けて、その後みんな当然掃除をいたします。諸外国では掃除とかは子ども達がしないみたいで、日本は掃除とかのところまで含めてが学校教育なんですねということで諸外国の大臣達も非常に感心をしていただいたということがございましたので、ご報告させていただきました。

さて、これから皆さんと一緒にこの水島地区のこと、そして倉敷市全体のこと等ご意見をいただければと思っておりますけれど、先日も水島の港まつりが第60回目と、七夕まつりが45回目でございます、非常に活況を呈されましたわけでございますし、また、最近私が非常に感心いたしましたすごいイベントが、いす1グランプリが2回目だったんですけれど、去年ちょっとおうかがいできなくて、こんなにたくさん人が来られて、こんなに皆さんが真剣に椅子を漕がれているんだということにびっくりいたしました。

水島のまちづくりでございますけれど、倉敷市の方が今水島リフレッシュ構想に基づきまして進んできておまして、この地区の中で水島の中央公園をはじめといたしまして、八間川、また道路の整備、それから環境交流スクエア、そこを中心といたします広場の整備、またまちづくりということで皆さんにもいろんな面でご協力いただいているところでありまして、プールが昨年完成をいたしました、また噴水広場のところがもうすぐ使えるようになるとか、公園を核として、そして道路の舗装等を皆さんとご相談をしながら進めてきているところでございますが、そのあたりのこと等も含めまして、皆さんにご意見をいただければありがたいと思っております。

それではご意見といいますか、今考えていることとか、こういうことを自分が入り組んでるとか、こういうふうには水島をもっと持って行ったらいいんじゃないかとか、コンビニエンス企業の皆さん達も一生懸命頑張ってくださいしております、三菱さん以外も皆さんもちろん頑張ってくださいしておりますので、皆さんと一緒にまちづくりを考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

《参加者 A さん》

水島の未来を考える会のAでございます。

実は私達、水島のまちづくりのつどいというのを4年前から水島商振連の事務

所で毎月1回開催をいたしまして、従来イベントを中心とする打ち合わせがどうしても主体になっておりまして、今お話がありましたように港まつりは60回を数え、夢koiは11年目、そしていす1レースなりあるいは将棋のストリートなり、こないだの港まつりも水島マルシェを含めて非常にたくさんの方がおいでになりました。イベントは立派なんですけれど、祭りが済んで、打ち上げ花火が済んだように人通りもまばらというのが実態でございまして、今後イベントもどんどんやっていくんだけれども、根本的なまちづくりをしていかないことには、イベントだけのことに終わってしまうということで、水島のまちづくりのつどいについても、今後基本的なまちづくりをどうするかという論議をいろいろしております。昨年の3月に岡山大学の生徒が栄駅前のはばたきで、倉敷市の公共施設が年々古くなっておると。複合施設を水島臨海鉄道周辺で作ったらどうかという提案がございました。そして、今年の2月に水島地区選出の9人の市議会議員の皆さんと一緒に東京都の武蔵野市の複合施設を視察されたと。素晴らしいそういった施設を見て来られて、やはり臨海鉄道の栄駅前あるいは常盤、そういったところの有効活用するための複合施設が望ましいんじゃないかといったような提案もございました。常盤駅の前のニシナ本店も更地になったということでございますが、要するにこのままではどんどん空洞化が進むのは目に見えております。公共施設も建て替えなりあるいは統合的に複合化するにしても現在のところに建て替えたのでは、水島の中心街には変化はほとんどないだろうということが推測されます。そこで、そういった提案なり、あるいは市議会議員の皆さん方を見て来られたそういった報告をただの報告で終わらすわけじゃなくて、どのようにしてそれを実現するかということについての協議が必要であろうかと思えます。

二つ目の問題です。水島の中心街のシャッター街なり空き家をどうするかという問題がございまして。これからのまちづくりは、バブル時期のように古いものは倒して建てて、いろんなお店を誘致するというのではなくて、いわゆるリノベーション、今ある家をいかに活用して低価格で若い人が望むような、商売をやるような意欲がある人が来るならば、固定資産税に毛が生えたぐらいでわずかかもわかりませんが、何にもしないよりはいいと思う。そういうことを一步一步積み上げていって初めて、複合化のまちづくりとそれからリノベーションのまちづくりがあいまって、車の両輪のように街が賑やかになるんじゃないかなあと。先ほど申しあげましたようにイベントで賑やかにやり、そして水島の町が見直された、また行ってみようやというふうな魅力あるまちづくりを一步一步積み上げていかないかんと思う。そのためには、水島には商工会議所がございません。前回もその問題が出ましたけれども、やっぱりこういったまちづくりについては、水島のまちづくり協議会といったような組織を作りまして、やっていくのが一番手っ取り早いことじゃないかと思えます。水島まちづくり協議会のメンバーとしては、私たちのほかに地元の企業、それから倉敷市の担当課の職員の方々、あるいは学校の先生なりいろんな方に入っていて、もちろん市議会議員の皆さんにも入っていて、そういった問題をどのようにするかという推進役に働きかけていったらどうかなあと。そのようなことを今考えております。

《市長》

どうもありがとうございます。今Aさんの方からこの水島地区の公共施設の今後の先行きということにどういうことを考えているのかと、今日市議会議員の先生がいらっしゃってるみたいなので、市議会と相談もできておりませんし、まだそういう段階まで進んでないということで、今は水島のリフレッシュ構想というところが大きな事業が進みつつありましたり、また、ちょっと離れておりますけれど、福田公園の方のリフレッシュの方も進んでいくというようなかたちになって、検討してるところですけど、水島地区の中で支所があります、この公民館や図書館とか児童館があります、この地区というのはなんといっても水島地区の中の中心部だというふうに思っておりますし、商店街の皆さんがいろいろに活動して頑張ってくださいと思っています。Aさんからのご質問の中で、昭和40年代なり50年前半とか60年ぐらいまでの間に今申し上げたような施設が順次建っていったわけですけど、それをやり変える時にどういうふうに考えてるのかという大きな質問だったと思います。これからの市全体もそうだと思うんですけど、今ひとつあるものをまたそれがひとつ時期が来て建て替えましようとか、またこっちにあるものはそれで同じものを作りましようという時代ともちょっと違ってきていると思うんです。ですので、今後の建て替えの時に複合化を検討していくということは必要なことじゃないかと思っています。まだその案ができてるといふ段階ではないわけですけど、私の気持ちとしてリフレッシュ構想がひと段落だいたい進んできたなら、この中心街のところの公共施設の配置、それを今のところがいいのか例えば今言われましたように常盤町のところ等も活用していくのか等も含めて考えていく必要があるんじゃないかなと思っています。でもこれは一番には地域の皆さんとそれから市議会の皆さんとご相談していくことになるかと思しますので、まだまだこれからということですけど、私としては、1個の施設をまたそこに1個ずつということじゃなくても十分その効果を発揮できるんじゃないかなというふうに思っております。商工会議所という面では、倉敷商工会議所には三菱自工さんの副所長さんが商工会議所の副会頭として入っていらっしゃいますので、水島のことももちろん代表されてはいるんですが、やはりAさん言われたように地元の皆さんの意見がもっと、もちろん水島の市議会議員さん達にもそうですし、市の方にもこれからもっと頻繁に話をしていただけるような素地作りっていうのが必要じゃないかなあというふうに思っております。

《参加者Aさん》

水島まちづくり協議会を是非立ち上げていただきたい。

《市長》

今後一緒に検討してまいりましょう。

《参加者Bさん》

西栄町のBといいます。

今日はゴミのことで、事業ゴミのでたらめが許せないということで、家庭ゴミはまあまあですから言いません。事業ゴミは何かと言うと大きい商店とか食堂とか病院、薬局、銀行、コーポ。家庭ゴミが年10万tとすると、事業ゴミは7万tから8万tであまりバカにするほどの数量じゃないんですけど家庭ゴミは資源ゴミの回収数量が出てるんですけど、事業ゴミはでたらめなことをしとるから数量が出ない。何故出ないかいうと、去年、おととしの12月の市議会で、ある市議さんに言ってもらいましたから、当時局長さんらが答えられましたけれど。その後、ゴミ処理場へ持って行って投入時に連射機能付きカメラで撮影するようにしてちょっとわかるようになったらしいですけど、そんなことをするより、資源ゴミをどのぐらい回収しとるかいうのを調べればわかるんですが、環境センターの車以外に業者用に115社ぐらいあるらしいですね、それはパッカー車を1台持っているような小さいところもあれば、十数台の大きいところも115社あるんですね、そこらが家庭ゴミは町内会にもいろいろ役員がいて、大勢手伝っております。私の四福学区では50人から40人おるんですけど一般廃棄物対策課では3人しかいない。3人で業者を指導し、商店の指導できるわけがないんです。それで、銀行なんかでもいい加減なことをしておる。銀行が悪いんじゃない。回収業者が悪いんですが。優秀なところがISO14001認証取得と車の後ろに書いとんですが。そこがぐちゃぐちゃにしとんです。

《市長》

環境のまちづくりということで、特に水島地区には倉敷市全体の環境学習の拠点であります環境交流スクエアがありますので、今Bさんが言われたような市議会の方でも何度かご質問をいただきまして、事業者の方の事業ゴミが分別されずに投入されているんじゃないかというお話だったと思いますので、その時の環境リサイクル局長の答弁でも、そういう事実があるということ踏まえて、これまでよりももっと啓発したり投入のところで写真を撮ったりとか抜き打ち検査をしたりということで、事業ゴミについても今言われましたように分別のところをちゃんと徹底されるようにしっかり一歩ずつですけど前進するよう頑張っていきたいと思っております。

一つだけ、今せっかく環境の話が出ましたので、新聞等でご覧になった方もあるかもしれませんが、水素ステーションを環境省の方に応募をいたしまして、国からの補助をいただけるということで、これまでに岡山県内には水素ステーションはなくて、中国地方にあったのは山口県の周南市だけでして、中国地方の東では尼崎市さんにしかなかったもんですので、水素ステーションで水素を使われる方も非常に困ってあったということで、国の方も是非岡山県内にどこか作りたいたいというふうに思っていたみたいでして、手を挙げましたところ、うまく受かりましたもんですので、設置場所としては、環境交流スクエアにしようと思っております。今、国と相談しております、岡山県内では初めてじゃないかと思えますけれどもできますし、それと四国にも一つあります。それから今度山陰側にも一つできるとかかっていますので、そういうところで使ったりできるようにしながら環境への意識を高めていきたいと思っておりますし、何より水素ステーションが

できますと多くの方が視察に来ていただけたらいいかと思っていますので、その時に商店街とかうちのリフレッシュ構想とか合わせて見学してもらえようように見学コース、市の方に市議会とかで言って来られた時にはお薦めするようにしていこうかなというふうに思っておりますので、ご報告させていただきました。

それでは、まちづくりとかまちづくり活動とかさっきお話も出ましたので、そういうことについてどうでしょうか。

《参加者 C さん》

三世代交流を中心に活動している「はびばる」というグループの代表の C と申します。私たちは地域との支えあいの中で里帰りしなくても出産育児ができる環境を確立していきたい、倉敷市水島で子育てできて良かったと思える環境、そして子育て、子どもの手が離れたとしても孤立することなく地域との関わりが持てる環境をという思いで、「はびばる」というグループを作って子育て中の母親が主となって活動しております。現状としては今市の予算からふれあいサロンの枠組みで助成金をいただいています。地域との関わりを持つ中で、高齢者とのふれあい、三世代交流を継続的に行っているためです。しかし問題点もありまして、一つ目は親子に対しての助成金が無い。私たち「はびばる」は子育て中の親子が集まっています。しかし子育てサロンは 0 歳～概ね 3 歳までの親子が対象となっており、私たち「はびばる」の活動ポイントと少しずれています。子育て支援は子どもの年齢で対象を絞ることは難しいと思います。二つ目は活動の場の確保が不安定であることです。公民館や公共の施設を利用するには利用料が発生し、運営上は厳しい状況です。現状は民間経営の施設を無料で提供していただいておりますが、経営者や会社運営方針の変更などでいつ無料から有料、利用不可となる可能性も否めないで不安を抱えております。三つ目は高齢者への助成金のみのため、親子に対しての助成金が無いので、親子に対してはすべて実費にて運営しているということです。「子育てサロン」「ふれあいサロン」等の枠組みだけでは今後の子育て、地域とのつながりの大切さを確保する運営はすごく難しいと思います。運営資金、場の確保の不安感があつての運営では運営者側の精神的不安が拭い去れないため、運営継続は難しい。そのあたりの改善をお願いできればと思っております。この活動について、市長さんはどう思われますか。

《市長》

ありがとうございました。「はびばる」さんの方は子育てを三世代交流と併せてやっていたらいいですね。

《参加者 C さん》

倉敷市で初の取り組みって言われています。今まではシニアの方だけとか子育て中のお母さんだけとか、別々の活動をされていると思うんですよ。それをミックスしていろいろ教えてもらって勉強にもなるし、お互いすごくメリットがあるなということによってこういう活動をさせていただいています。

《市長》

なるほど、わかりました。今、Cさんが言われたように、就学前のお子さんに対する子育て支援について、地域のボランティアさんの活動としては、今まで子育てサロンとか、幼稚園の空き教室を利用している子育て広場とかがあって、それもだいたい0～3歳までとかが中心で行われています。あと例えば年配の方で地域のふれあいサロンとか、例えば認知症カフェとかそういう目的ごとに区切られていて、ちょっと縦割りの所があるかも知れないですけど、そういうのを三世代交流で子どもおじいちゃんおばあちゃんも、中核になるミドル世代の方も一緒にという活動されているということですよ。まず最初に活動についてなんですけど、本当にこれからの社会に向けて非常に大切なことだと思いますし、厚生労働省とかもこれまでは子育てだったら子育てだけ、認知症の方だったら認知症の方だけだったのが、三世代交流とか、施策でも三世代同居とかそういうのを進めるのが、今着目してやっていこうということになっていますので、すごく先駆けてしていただいていると思います。一方で今お話いただいたように、市の助成金とか応援の枠組みとかが、ちょっと縦割りになって、まだ制度が追いついてないんじゃないかと思うんですけど、三世代同居に関して、市も今国の状況とか聞いている所ですので、今後、上手く三世代交流についても応援していけるような何か枠組みが、一緒に作ればいいなと思っております。今すぐ、まだ上手くできるとかわからないんですけどそれぞれのニーズもあるし、また一緒にというニーズもこれからの方向性としては高いと思います。とてもいい活動を先進的にしていただいている、参考にさせていただきたいし、いろいろ教えていただければと思っています。せっかく子育ての話も出ましたので、子育て関係の話とかありますか。

《参加者Dさん》

少しもやもやしてることがあるんで、聞いていただきたいと思っています。私には、現在小学5年生の娘と今年度公立幼稚園に入学した4歳の息子がいます。お話を聞いていただきたいのが、公立幼稚園のことです。二つあるんですけど保育料と保育内容についての事が一つ、今季入園の子どもから、保育料が変わってしまって、人によったらぐっと高くなったんです。ちょっと納得できないかなあというのがあって、もともと私立幼稚園との格差をなくすということで取り組まれたということなんですけど、料金だけ格差がなくなって中身は全く公立幼稚園は変わってないんです。私立幼稚園だと体操教室があったり英語があったり、音楽があったり様々な取組が園によってあるようなんですけど、内容が変わってなくて、そのまま親の負担はすごく大きいんです。毎日送り迎えで、お弁当は毎日なんです。これは文科省の担当になるんですかね。(市長：幼稚園は文科省です。) 私たちの希望は保育料を元に戻してほしいなと思うんですけど、それが叶わないなら、詳細は市が決められるところもあるらしいんで、そういうところをちょっと何とかありませんかということです。それと、私立並みの料金でメリットの少ないままの幼稚園生活でしたら、無くなるんじゃないかなと思うんです、公立幼稚園が。メリットはないですよ。それで、将来保育士さんになりたいという子ども

さんがいらっしゃっても、夢が現実になるとときには、私立と公立では公立の保育士さんのお給料が良いと言われているんですけど、なりたい公立の方を選ぼうと思ってもなれないという狭き門となるんじゃないかと思っています。それと、もう一つ目は駐車場についてなんです。公立幼稚園で駐車場のあるところもあるらしいんですけど、私たちの通っている幼稚園は無いんです。とりあえず園で、公立だからということで確保してはいるんですけど、小さいお子さんとか生まれただばかりの赤ちゃんを連れてくるお母さんもいるんですよ、家においていけないから。雨風が吹いても濡れながら、何人も小さいお子さんを連れてとか、見ても、精神的にも体力的にも大変だと思うんで、駐車場とかも検討していただけたらと思うんです。小さい子がいるお母さんとか、お腹の大きいお母さんにとっては負担の大きいことなので。私たちは連島南幼稚園なんです。そういう事も考えていただいたらうれしいです。

《市長》

ありがとうございました。なかなか市の全体の幼稚園の保育料の決定の仕方というのは、国の制度に基づいて行っているところもありますので、ここで詳しく答えるのが時間的に難しいかなと思いますので、また後ほどにでも、改めてお話をお伺いできればと思いますけど、大きくはですね、今保育園だったら待機児童の問題、幼稚園だったら3歳児保育をしていない幼稚園がまだあるわけですけど、3歳児保育を幼稚園でもらいたいという要望が高まっているので、そこも是非していきたい。それから公立幼稚園と私立幼稚園でですね、国の方が、子ども子育て支援新制度というのを平成27年度から始めたもんですので、幼稚園の間、それから幼稚園と保育園との間の垣根をなるべく低くしてもらいたいという方向で国が動いている中で、いろんな料金とか制度が過渡期にあるというのが大きく言いますと現状であるかと思っています。ですので、今Dさんが言ってくださったようにこれまでと料金が変わったりとか、ご不便をおかけしているところもあると思っはいるんですけども、それぞれ国の制度などにも基づいて料金等を決めていくというところもありますので、すぐちょっと、どうできるかわかりませんが、今お話しいただいたような、何人もお子さんがいらっしゃるご家庭の方が、当然負担も大きくなると思いますので、例えば第2子から半額とか、第3子が無料化とかですね、そういうところも皆さんのお声を伺って、国の方にも要望いたしまして、28年度からですね、まだ最終的に決まっているわけではないんですけども、国が料金の事について、世帯の収入の区分があるんですけど、第2子半額、第3子免除という方向にも進んできていただきつつありますので、世帯収入とかですね親御さんの、例えばひとり親家庭さんとか、それから収入の面あたりも勘案された制度になっていますので、それがこれまでよりも利用しやすくなるという方向には向かっているという状況でございますので。また後でお話をおうかがいします。

《参加者Eさん》

三福地区社協のEと申します。広江憩いの家の事について、物置を作って欲し

いなあとっております。憩いの家というのは、健康な長寿社会を実現する場所と考えまして、受託者は広江の連合町内会が委託を受けております。「広く」ということで、まず使ってもらわなければいけないということで、1ヶ月の利用人数を1000人を目標にということで頑張りました、最初は500人程でしたが、8年ほどたった時に丁度1000人に達しまして。その後だんだん利用者が増えてまして、半径3キロ以内くらいから通って来られる人もおられるようになりました、そうすると物が増えて、置き場が無くて困ったものですから、ここで言うべきかどうかかわからないんですけども、お願いしたいと思って発言いたしました。

〈市長〉

ありがとうございました。それぞれの憩いの家について最新の利用状況まで把握できていないものですので、またそれぞれの憩いの家の設備の事等につきまして、今いただきました、通っていらっしゃる方が増えてこられてるとか、そういうところに基づいて設備とかをどうするかというのを考えていくようになるかと思えますので、また担当の方を派遣いたしまして、現場の状況を見させていただきたいと思えます。

〈参加者Fさん〉

水島のFといいます。先ほどCさんがおっしゃっていたところへ先月行かせていただきました、三世代交流をさせていただきました。とっても楽しく過ごさせていただいたんですけども、後が年配者というのは疲れますね、子どもさんが元気なんでね。でも楽しく過ごせたっていう事はいいことかなって思っています。それから一つ、私たちの水島学区では、6月から「おしゃべりカフェ」と言うのを立ち上げました。オレンジカフェは認知症カフェということで「あの人が行くのは認知症じゃあ」というと言われるから「オレンジカフェ」はやめにして「おしゃべりカフェ」という事にして、皆さんが来て楽しくおしゃべりしながら交流を深めていっていただきたいということで、担当するのはボランティアでさせていただいております。ところが、やっぱり準備するのにお金がいるんですけども、うちの水島学区はコミュニティがきちんとしておりますのでコミュニティの方から資金を多少いただきまして、立ち上げることができました。だいたい月1回の開催なんですけれども、50人以上くらいが来てくださって。ということで、7月にははびばるさんが子どもさんを連れて来ていただいて。そういうところでも、ただ認知という意味だけではなくて、三世代交流もできるんじゃないのかなということで、これはずっと続けていきたいなというふうに考えております。幸いにも会場はコミュニティ会館がございますので、そこを活用させていただいております。

私達はおしゃべりカフェができて良かったなと考えております。それが1点ともう1点、私は今水島小学校の放課後児童クラブの方を担当させていただいております。非常に子どもは元気ですが、クラブで働く支援員の先生方の確保が非常に難しい。平成32年度からさらに文科省の方から厳しいお達しが出ておりまして、先生方も一生懸命研修に行かせていただきながら、資格があっても、その資

格をさらに強固にするために、県の研修を受けなければいけない。それも一日だけじゃなくて、やっぱり4回も5回も受けて初めて認定されるということ。それから学校の先生の資格を持っている方、それから子ども達と一緒に触れ合って2000時間以上している人を今支援員として登録させていただいております。また、補助員というのも大切なので資格は無いけれども、支援員の先生方を補助するという立場から応援していただいております。やっぱり支援員の先生方、補助員の先生方の確保っていうのが非常に厳しいということで今悩んでいるところなんです。ということで、もう少しクラブで働く支援員の資格要件が緩和できればいいかなということですけど、やはり大事な子どもさんを預かっているところから、厳しくも行かなければいけないのかということでも今模索しているところです。

《市長》

ありがとうございました。おしゃべりカフェの取組み、大変ありがとうございました。良い名前ですね。誰でも来てお話をするというのが一番重要だと思います。月50人も来られるなんて凄いなと思います。それから、今放課後児童クラブの支援員さんとか補助員さんの事ですけれど、これが今言われましたように国からの基準も非常に厳しくなってきました、今のは放課後児童クラブなんですけど、保育園の方も待機児童っていうのも保育士の方がなかなか、東京とかに就職で行ってしまって、資格を持っていても向こうで就職する方が良いとか言う方もいらっしゃるという事等もあって、もしくは一回辞めたら復職されないという方もいらっしゃるという事があって確保が中々難しいというのが大きな課題だと思っています。市といたしましても、保育士の方、ちょっとまだ放課後児童クラブの方は市が運営という事ではないのでできていないのですが、保育園の方は保育士の確保、例えば一回辞められて戻る自信がないんだけど、でも何日か研修したら戻れるかもしれないという方もいらっしゃるんで、例えば登録していただいたりとか、相談が来たらこの園に一回やってみてくださいと言う方も実は増えてきておまして、その方々が戻ってきてくださることによって、待機児童を解消できる部分もだんだん出てきてます。保育士が確保できないので待機児童がどうしても出るというところもありますので、そういう面なども含めてやっていきたいと思っておりますし、放課後児童クラブの方は昨年度からいろいろ制度が変わって、市の方から非常に基準がきついと思う点は国の方に言っております、少しでも負担を軽くできるようにとは思っております。子育て、待機児童解消とか、大きな施策ですので頑張りたいと思っております。

《参加者Gさん》

いす1グランプリを第2回を今年させてもらいました。第1回目は初めてということでもたくさん注目していただいて、盛り上がって良かったなど、第2回目は大変不安になりながら商振連の〇〇会長を始め、〇〇会長や〇〇会長や〇〇町内会長さんや皆さんにお手伝いいただいております。

2回やったんですけど、もっといいものができると思っております、今回も8

1チームの申し込みをいただいて、水島地域以外が9割ぐらいの参加チーム、県外は今回は10チームぐらいだったと思うんですけど、県内各地から来ていただいて本当によかったんですけど、もっともっと遊びに来た人たちも楽しめるような、いす1が体験できたりとか、もっともっとたくさん小っちゃい子から皆で楽しめるような会にできるよな、という反省をしまして、商工の方からお祭りで補助をいただいとるんですが、是非もう少しいただきまして、広報とかをもっと頑張れたらなと思ったりしながら、参加者への募集はチラシを5000枚ぐらい作りまして、PRをしてあとはインターネット等で参加者募集を僕たちフェイスブック等で一生懸命やっているんですけど、ポスターとチラシはちょっとしか撒いてないのが現状でして、いろんな方から「あれ、もう終わったの」とか「見に行きたかった」とか、もうちょっとうまく告知ができたらいいなというのがあって、昔、常盤のお祭りの時は折込とかもしてたんですけど、予算上そういうのはやめたんです。そこにお金をかけずに他にかけないとだめだということで今させてもらって、岡山大会ということでもっとたくさん来ていただいたら、楽しいものができるかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

いす1グランプリのポスターに、1回目も2回目も水島の工業地帯の夜景を出しているんです。水島のPRも含めて。水島の夜景は全国的に有名で、西日本で1番になりました、日経新聞で。いろいろ調べると日本工場夜景サミットというのがありまして、去年から7大工場夜景になっているんですけど、室蘭、川崎、四日市、尼崎、周南、北九州に昨年富士市が入りまして、今年はその富士市でサミットがあるそうなんですけど、倉敷市も是非ここに乗り込んで、市がサミットに登録して皆で各地で工場夜景のイベントをやっているみたいなんです。それにもよったら倉敷市も登録していただいて、水島の夜景もPRしていただいて、水島の地域力を高めていただけたらと思います。

《市長》

ありがとうございました。いす1グランプリ、1回目、今年2回目と大変な盛況で盛り上げ隊の皆さんをはじめ商工会、商店街の〇〇会長さんをはじめ皆さん本当にお疲れ様でございました。素晴らしい発信ができたんじゃないかと思えますし、またこれから3回、4回の回を重ねていくにあたって、いす1自体のPRもそうだと思いますし、多分学生さんをはじめとして、今取り組み始めていると伺っているんですけど、商店街のPRといいますか、歩いたりとかして、こういうこだわりの店があるとか、今Gさんが言われたような発信力の強化というところが、これから重要になって来るのかと思っております。倉敷の方の商店街は、美観地区の一带のお店自体もチラシがあるんですけど、当然どんどん変わりますし、こだわりのものも変わりますので、それを作ったらそれを手に取られてまたお客さんが来られるというのがあると思いますので、もちろん皆さんで協力してそれを作っていただくことになると思うんですが、どういうものにするかとか、そういうのとタイアップしてやっていく必要があるのかなと思っております。

それから工場夜景のサミットは聞いたことがあったような気もするんですけど、まだ参加していません、と思います。囲碁サミットとか、将棋サミットとか、順

次増やしていつているんですけど、今度タコサミットというのがあるんですよ。明石のタコと、下津井のタコと、三原のタコとかというのがあって、全国で8個ぐらいあるんで、そこには入ったんですけど、また順次いろいろなサミットに参加していく中で、こっちで工場夜景を見学して、商店街に来てもらえればいいなと思います。その時には愛あいサロンでサミットができれば良いなと思いますし、今後検討させていただければと思っています。

《参加者Hさん》

水島には公園がたくさんありますよね。その公園の中にはたくさんの木が植えられています。その木も20年、30年経ちますので、かなり大きくなっています。今の時期はまだ日陰になっていいんでしょうけど、これから10月、11月、12月になると、かなり落ち葉が落ちますね。それが周りの家の中に入る、家のといの中に入る、排水溝の中に入るということで、私も連合町内会の活動の中で諸々の苦情を聞いてますので、支所の方へは剪定のお願いをするんですが、何本か切ってもらったらあとは来年、再来年先だというような格好になります。私たちができる所、手の届く範囲はやとんですね。ただ20m、30mになるとどうにもなりませんし、大体公園の中に40本近い木があって、特にメタセコイヤという木が周囲に13本ぐらいあるんです。これは高くなり小さな葉が落ちますので、それがとい、排水溝に入ると、流れなくなるんです。それで良い意見があればいいんですけど、少しその木を省くということはできないんだろうかと。カットしていただきましても、さっき言いましたように4~5年ぐらいにしか回ってきませんので、非常に高くなる。これから台風のシーズン、異常気象ですので、いつ異常な風が吹くかもわかりませんから、その周りの住民の方はかなり心配されていますので、ある程度すれば何本か間引いていただいて、また新たな木を植えるとかというようなお願いをしたいところです。

《市長》

公園の木の伐採ですか、私はあまり詳しくないもので、通常は木を植えてくださいという要望はあるんですけど、伐採の方は少ないものですので、どういう手続きがあるのかわからないんですが、多分地区の皆さんと相談して、可能な面ももちろんあると思いますので、ちょっと後で調べましてお返事させていただいていいでしょうか。

《参加者Iさん》

私今日来たのは、農振、農業振興地域の件で来させていただきました。農振には、青地と白地がありまして、青地の方はものすごくきついです。普通何もできない。白地でしたらある程度考慮があるんですが。その青地で県道・市道、宅地に囲まれてただその一画だけ、200坪ぐらいの所だけ、青地として市の方は「これは青地だからダメ」と。言われるのは当然なんです。法律でそうなってるんですが。そういう所は他にもまだあるそうなんです、そのような解除の検討を考えていただきたいんです。

《市長》

ご意見ありがとうございました。今言われました農業振興地域の規制が実際のところ、非常に厳しいことは厳しいわけですが。まあ農業委員会の規制の解除といえますか、裁定、決定ということになるわけですが。で、元をたどれば国の方からの「農業を振興しましょう」という大前提があって、それが少しずつは緩い方向へ進んでいるかなと思っておりますがまだまだ、規制が大幅に緩くなっているというわけではないと思います。でも今の該当の所がどこかと言うのもあると思います。

《参加者 I》

農業はされてないんですよ。草ぼうぼう、木も生えとるんですけど、青地として何もできない状態。

《市長》

国もまた荒れている農地を中間管理機構というのに移して、その土地の場合は三方を囲まれて難しいかもしれないですけど、その中間管理機構に移して農業をやっていただける方に貸すという方向に進めようとされてるんですが、まだ出だしたばかりだという状況ですので、国も厳しく規制するだけはいけないと思われたからこそ、そういう方向を始められたという状況ですので、抜本的にいままでダメだったのが、すぐ解除になるというのはなかなか難しいと思うんですけど。

《参加者 J さん》

水島のおかみさん会をしております。一つだけお願いというか、先ほど A さんが言われていたお話の中に、水島のリフレッシュ構想が進んで来たら、みんなでいろんなまちづくりのことを考えていきたいと思いますと言われて、うれしいなと思っただけですけど、水島の商店街は瀕死の状態というか縮小が進んでおりますので、いろんなことはやっておりますが、店主やまちづくりをやっている方たちも高齢化が進んでおりますので、その計画を相談して計画を作るにも 1・2 年かかりますし、またそれからいろんなことをしていくのにも 10 年以上かかったら、私たち生きてられるかな、という感じもしてらるんです。リフレッシュ構想が進んで来たら、というのはリフレッシュ構想は、来年ぐらいで終わりでしたかね。(市長；計画自体は 3 2 年度までなんですけど、大きな事業は来年度でほぼ済むんじゃないかなと思います)できるだけ早く、急いでいただければと思います。よろしくお願いたします。

《参加者 K さん》

今の A さんも J さんも同じなんですけど、水島のまちづくりということ、「このまちの地域力」という今日のテーマなんですけど、このまちの、まず課題から、と思っております。水島というのは多分倉敷に次いで 9 万近い人口があって、地域で言うと 2 番目の人口を抱えたところになると思うんですけど、水島は、児島・玉島と

は違って、自治体を組んだことがない、という経過がありまして、連島町、福田町が合併してるものですから、水島の中心街というのが、連島や福田から言うと、地区の支所があったり、いろいろ公共施設はあるんですけど、どうも町の中心という意識が、うすいと思うんです。そのことが、水島の商店街が発展しないということも、福田や連島の人が水島に来るような、行政がインフラ整備をしていないということがあると、私は思っています。で、まずこの水島の中心地に人が集まることを考えることが先決、優先しなきゃいけないかなと思っています。さっきHさんから話がありましたが、水島のこれもひとつの地域力だと思うんですが、公園が非常にこの中心市街地に多いんです。ところがこの公園というのが都市計画法で、児童遊園という、今でも多分そういう位置づけだと思います。でもこの中心市街地には、子どもというのが本当に数えるほどしかいません。この都市計画決定をされた公園を変えるというのは難しいというのは私もよく分かるんですけど、何か今のこの時代に合った公園の整備を。あれだけの公園があるんですから、もうちょっと整備をして、何かよそにない商店街を作れば、いろんな人も集まってくるし、そういうよそにない整備の仕方というのをぜひ。これは役所だけというわけにはいきません。地域も一緒になって、まさにこのまちの地域力を一緒に考えるということだと思います。そういうことでは前のふれあいトークの時に〇〇会長が、水島支所の中に今本庁で言えば企画経営室のような部署でしょうか、そういう人をおいてもらえないかという。まあこれは、商工会議所がなかなか水島に目を向けてくれないということもあって、そういう意見が出て、たしか「検討する」という返事をいただいていると思うんですが。なかなか人が少ない中で、難しいと思うんですが。本庁でもいいんですが、水島担当の人が本当にしっかり考えていただいて、地域と一緒に、この水島のまちをどういうふうにしていくか。まあ中には、公園を駐車場にすればいいじゃないか、という人もいますが、せっかくこれだけの公園を持っている所は日本でも少ないんじゃないかと思うんです。これを有効に、何か整備の仕方というのをみんな考えて、日本でも、水島に行ったらすごいなあと。で、市長が言われたいす1をしたら、水島のあのきれいなまちで、というようなことになれば、水島はいいまちになるかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

《参加者Lさん》

水島を元気にする会の者です。水島のまちづくりは〇〇会長、商振連の会長、〇〇さん、そして私たち3人で頑張っていますが、皆さん水島の中に入らないで、上にちょっと飛んでみてください。何が見えますかね、水島は。まず工業地帯、それから亀島山。臨海鉄道も見えますね。それから港が見えます。大きく4つなんですが、港は全く動いていません。これは港から、例えば夜ちょっと遊覧しようか、全くありません。港まつりもやりましたが、港まつりではないですね。実際、全く稼働してない。なぜかと言うと私の想像ですが税関があります。このあたり密入国の厳しい税関があるがためじゃあないかなと。想像ですけど。昔のようにもっともっと港に子どもが来て、遊べるような港が欲しいなど。それが一つ。それから亀島山。これ海拔が84mほどありますが、避難地には非常に適してい

ますね。その亀島山の地下工場を、若い人が何にも知らない。あの地下工場に2000m穴を掘って、飛行機の部品を作ったんですね。昭和15年。飛行機を今の三菱自工さんの所で、三菱航空機製作所で飛行機を523機も作ったんです。一式陸攻ですね。このすごい飛行場があったこの亀島山も全然無視をされてますし、水島の人も何にも知らない。若い人も知らない。こんな戦争の遺跡はもう日本にはあんまりないんです。玉島の砲台跡もありますけど、水島の地下工場は、日本にはもうこんな戦跡、戦争の跡はもうあまりないぐらい大きな戦跡になってるんです。この戦跡がなぜ大事かという、若者に平和を伝えるための戦跡なんですね。これをみんなでどうやって活かしていくかということが大事なんじゃないかなと思いますし、それからもう一つ、水島臨海鉄道はもっと安くして、西は川崎製鉄、三菱ガス化学さん、三菱自工さん、東へ行くと東京製鐵さん、三菱化成、旭化成、JX、中国電力さん、全部通勤できるんですね。通勤をすると事故が起きないんです。事故が起きなかったら家で待ってるお母さん、お父さん、みんな安心なんですね。そういった通勤に使える水島臨海鉄道。このあたりを考えてほしいなと思っております。

《参加者 M さん》

水島臨海鉄道のことを話そうと思います。臨海鉄道は年に何回か、一日乗り放題とか、各駅で楽しい行事をしたり。岡山では水島臨海鉄道に乗ったことあるという人はほとんどいなくて、倉敷でも水島方面の人しか乗った経験がなくて。もっと岡山県の人に乘ってもらうような方法を考えたらいんじゃないかなと思っています。

それから、母親クラブという活動をしています。児童館、倉敷市に真備町を入れて6つありますけど、ボランティアは高齢者で、三世代行事は高齢者は困らないです。みんな「この頃のお母さんはいいよな。私ら授業料は払ったし医療費も全部払って子どもを育ててきたけど、年を取ったらボランティアで無料で使われて」と言われます。待機児童は少ないんですか。(市長；少なくともはりました。随分。)育児休業を取って今度働こうと思ったら、保育園がないんで育児休業を伸ばす。そういう人は待機児童に入っていない。そういう働くお母さんを応援したいと思います。

《参加者 N さん》

商店街の者です。問題が大きすぎてすぐには結論が出ないと思いますが。なぜ水島には空き家が多く、連島地区・福田地区には空き家が少ないか。そういうことを市の方で検討していただきたいなど。まあこれは商業地域で耐火構造の建物しか建てられないということだと思います。それで福田と水島と連島の境はOKなんです。今の現状の水島商店街というのは、商業地域ではありません。完全な住宅地域です。その辺を考えていただきたいなど。なかなか難しいと思いますが、よろしく願いいたします。

《参加者 O さん》

常盤町の連合町内会の者です。八間川の花植え・草取りをしてるんですが、今年からはクラレから水が流れないらしいんですけど、これからどうなるんでしょうか。それから護岸も大分穴があいて、この間も川に落ちたんですよ。だからあのあたりの護岸をいいようにしてもらえんかなと。大きな穴があいてるんですよ。石積みの土が流れて隙間があくんです。市へ言って埋めてもらったんですけど、また大きくなったんです。市から考えてください。お願いします。

《市長》

安全の面から、しっかり考えていきたいと思います。それぞれになかなか十分な答えができなかったかかも知れませんが、地元の商店街さん、それと最後の方に言っていただきましたが、水島臨海鉄道でしたね。この臨海鉄道は、自分があて職で社長だから言うわけじゃないんですけど、本当にもっと注目されているものだと思います。今キハの車両が走っていて、全国でも少なくなっているもので、この間もキハの20が引退するときに、非常に写真を取りに来てくれたりもしたので、さっきお二人の方が言うてくださったように、水島臨海鉄道を活用したまちづくりというのもできたらと思っております。今回JR関係からも新しい人が来てくださったので、あて職ですけど社長の私としては、もっと地域の皆さんと、今お雛列車をしてますけど、井原鉄道さんのことももっと参考にしたりですね、やってもらうようにとお願いはしております。今倉敷地区とかは住む場所が足りないようになってきているので、水島臨海鉄道がもっと倉敷駅の方に直結して、この臨鉄を通して、多くの倉敷駅周辺の人たちや岡山に通勤される人が、水島に家を持ってもらえるようにならないかなという大きな希望と考えています。もちろん臨鉄は工業地帯の多くの貨物を運ぶ大事な列車ですし、かつ住民の皆さんの足となるものですので、その両方になんか、まちづくりの役に立つものになっていくのが、非常に重要な事じゃないかなと思っておりますし、まちづくりには地域の皆さまのご協力が大事でございます。商店街の皆さん、元気にする会、未来を考える会、それから公民館の公民支館の館長もいらっしゃってますが、そういう組織が非常にしっかりされてますので、いろんな皆さんのお声をいただいて、頑張っていきたいと思っています。

それからちょっと離れていますけど、芸科大さんが水島にはあります。この芸科大さんの力というものをもっと取り入れられるように、また、芸科大さんにもまちづくりに協力してもらえようということ、連携の協定とかも昨年結びましたので、もっともっと学生さん達にも関与してもらえようようにできたらいいなと思っております。

最後ばらばらになって申し訳ありませんでしたが、皆さまから今後のまちづくりについていろんなアイデアをいただいたと思います。これからも一生懸命頑張ってますのでいろんなご意見をいただけると幸いです。今日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。